



開校130周年

開校記念日によせて

未来に繋がる自分へ繋げる

主な内容

- アルバムで振り返る駒澤大学の歴史 4・5
- 名誉教授のプロフィール 6
- 学長学業奨励賞受賞並びに学長奨励賞受賞者発表 9
- 留学体験談／語学セミナー体験 10
- 学生企画 オータムフェスティバル実行委員会 12
- サークルの活動報告 13
- ホームカミングデー開催について 15
- 清水聡選手がロンドンオリンピックで銅メダル獲得！ 16

開校130周年開校記念日によせて



開校記念日の思い出

総長 田中 良昭

今年平成24年（2012）の開校記念日は、明治15年（1882）10月15日に、本学の前身である「曹洞宗大学林専門学本校」の新校舎が麻布日ヶ窪（現在の六本木付近）に完成し、開校式典を行ってからちょうど130周年の記念すべき年に当たります。

私が本学に入学したのは、戦後も8年を経過して漸く落ち着きを取り戻した昭和28年（1953）のことであり、当時は仏教・文学・商経（現経済）の3学部と短大仏教科からなる小じんまりとしたカレッジという雰囲気がただよっていました。そして学部の4年、大学院の5年を経て仏教学部助手兼短大講師に就任した昭和37年（1962）は、ちょうど開校80周年の年でした。当時歴史学科の教授で後に学長になられた阿部肇一先生が中心となって『駒澤大学八十年史』が編纂され、また当時讀賣新聞社の社主であった正力松太郎氏が、道元禅師の『正法眼蔵』菩提薩多四撰法の巻にある「利行は^{ふえん}一法なり、あまねく自他を利するなり」の教えを敷衍した『利行は一法なり』と題する著書を出版されたことに対し、本学最初の「名誉文学博士」の称号授与がなされたのです。旧図書館（現禅文化歴史博物館）での授与式、旧本館2階の大講堂での記念講演の後、夜には日比谷の東京会館で本学主催の祝賀会が催され、日本を代表する政財界の名士が参集し、次つぎとスピーチをされたことが昨日のこのように思い出されます。

その後昭和57年（1982）の開校100周年では、本館、記念講堂、一号館が新築され、平成14年（2002）の開校120周年は私の教員生活の最後の年で、旧図書館（耕雲館）を改装した禅文化歴史博物館が開館し、初代館長を務めさせていただきました。



大海は足ることを知らず

学長 石井 清純

私が入学した昭和53年（1978）には、旧本館と旧1号館がまだ残っていました。その年の末に、開校100周年記念講堂と本部棟の建設に向けて取り壊されましたので、私は旧1号館で講義を受けた最後の学生ということになります。

板張りの廊下で、中庭のある趣きのある作り、授業中にも応援団が練習をする太鼓の音が聞こえていました。いつも、「やっているな」程度で、あまり気にもかけていませんでしたが、いま思えば、なんともおおらかな時代でした。

それから30余年を経て、今年、駒澤大学は開校130周年を迎えます。平成21年度に策定した財政再建計画も、教職員及び関係各位の懸命な努力によって軌道に乗りかかっているいま、この節目を、本学の持続的な発展への契機としなければなりません。

「水、平らかにして流れず（水は水平であれば流れない）」という禅語があります。平穏で安定した状況を象徴的に示した言葉です。しかし、道元禅師は、それだけでは「真の安定」ではないと、あえて次のように述べています。「『水、平らかにして流れず』とは、『大海もしることを知らば、百川まさに^{さかしま}流るべし（海が“これで十分”と思ったら、そこに流れ込む川はすべて逆流してしまう）』なり」（『永平広録』巻3）と。つまり、状況に満足して動きを止めると、すべての流れが滞ってしまうことになるということです。持続的な安定性を確保するためには、留まることなく川の水を受け入れ続けなければならない。現状に安住しようとする「心の隙間」を鋭く突いた一言といえるでしょう。

駒澤大学も、現在のあり方に満足することなく、未来に向けての歩みを続けてゆきたいと思えます。



昭和40年代のキャンパス

一転語

この8月はフランスのパリで過ごした。パリでも気温はほぼ連日30℃を超えたが、日本のような蒸し暑さがまったくないので、日蔭・室内に入れば、とても涼しい。それでも多くのパリ人が避暑のため8月にパリを離れるが、少なくとも日本人にとっては8月のパリは最高の避暑地である◆ただし私は中下旬の9日間パリを離れ、妻と2人、スペイン国境近くのフランスの町ポーに住む友人夫婦のもとを訪れ、4人で車に乗りフ

ランスとスペインにまたがるバスク地方——スペインの「バスク州」だけではなく、その周辺のアラゴン、ナバラ、リオハなどスペイン北東部の各州と、フランスのピレネー・アトランティック県の一部を含む地域——を走破した◆パリからバスクへとかなり南下するので暑さが心配だったが、山の中にあるエステーリャ（サンチャゴ・デ・コンポステラへの巡礼の宿泊地）でも、海辺のリゾート地サン・セバスチャンでも、気候はあまり変わらず、さわやかであった◆バスク文化の独自性を目の当

たりにするための旅であったが、地名表示のバスク語の特殊性は目に着くものの、生ハムやチョコレートなどの食や家屋の建築においてバスクの独自性を直接発見するのは、特に外国人の旅行者にとってはなかなか難しかった◆やはりバイヨヌのバスク博物館が丁寧に提示する歴史的・民俗的資料や、サン・セバスチャンの海岸に設置されたバスクの彫刻家チリダの傑作「風の櫛」によるバスク文化の芸術表現を通してこそ、私はバスクの独自性に触れることができたように思える。



同窓会会長
越後 宏久

同窓会 駒澤大学・駒澤短期大学卒業生の会

開校130周年を祝い

今夏、同窓生の清水聡君（平成21年3月経営卒）がロンドン五輪で活躍し、44年ぶりとなるボクシングバンタム級でメダルを獲得しました。130周年のこの良き年に同窓生の目を見張る活躍がオリンピックという舞台で実現し、全国同窓生も心からの祝意を清水選手に送ったことと思います。

今号は私の在学時の思い出を少し書かせていただきます。校門

を入り正面に低層階の本部棟、右奥にくすんだ煉瓦の図書館（現禅文化歴史博物館）、下駄履き姿の学生が当時の駒澤の姿でした。2年次に学寮に入ることができ、坐禅・読経・清掃は心身の鍛練となり充実した生活でした。玉電で渋谷に向かい東横デパートでホットケーキを食べながら語り合う楽しみもありました。深夜のラジオ講座に出演されていた富倉教授、塩田教授、渡辺教授に憧れて真剣に講義を受けたものです。卒業後半世紀を過ぎた今では色褪せた思い出かもしれませんが、同窓生21万人が学び集った母校への思いや期待は不変です。

同窓会は駒澤大学のさらなる発展と在校生諸君の活躍に期待し今後も支援を続けさせていただきます。開校130周年おめでとうございます。



教育後援会会長
佐藤 隆彦

教育後援会 在校生父母の会

お祝いの言葉

開校130周年という記念すべき年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。

これも、歴代の先生方や、学校関係者の皆さまの努力の賜と深くお礼申し上げます。

道元禅師の「身心学道（心と体がひとつになった学び）」と表現された、強く自己を律する禅の基本。また曹洞宗の組織の基礎を築かれた瑩山禅師の教え、「一仏両祖」の

教えを受け継ぎ、未来を見据え、時代に適合した柔軟な知性、それを社会に活かす実践力を身につけた人材の育成に、これからも歩いていくことを望みます。

また、駒澤大学の校章にも表されている、極めて大きい心で、すべての学を蔽い尽くし、常にこだわりのない公平な心を持った学生達を育てることも、大事な目標の一つです。

日本国内だけでなく、世界の駒澤大学を目指し、発展されることを望みます。

駒澤大学教育後援会は、これからも、大学と連携を密に計り、できるかぎりの支援をしていくことをお約束して、お祝いの言葉とさせていただきます。



駒澤会会長
森屋 正治

駒澤会 卒業生父母の会

駒澤大学 開校130周年を祝して

駒澤大学開校130周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

麻布区北日ヶ窪において曹洞宗大学林専門学本校として開校して以来130年となり、本学の歴史は顧みますと、文禄元年（1592）、本年より420年前に曹洞禅の参究と漢学の

振興を目的として開かれた「学林」にまでさかのぼること聞きおよんでいます。東洋でも一番に長い歴史を有し、建学の理念であります「行学一如」ののっとり弛まぬ前進をしている中、大学を取り巻く環境は、日々変化を余儀なくされております。

そんな中、駒澤会は発足当初より会員相互の親睦をはかり大学興隆発展のため、特に奨学金制度を確立し、少しでも大学または学生に寄与してゆきたいという念願で活動し、今日までに1000人を超える学生に奨学金を授与することができました。今後とも大学発展のため、会をあげてのご支援をしてゆく所存でございます。

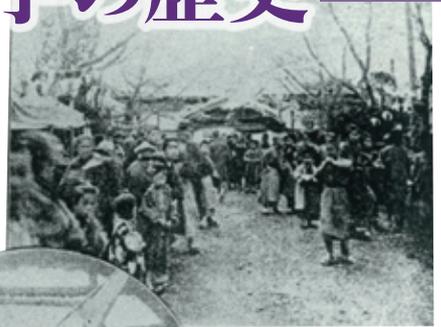
結びに駒澤大学がさらなる発展を遂げることをご祈念申し上げお祝いの言葉と致します。

| 年 | 祝辞 |
|------|--|
| 2012 | 駒澤大学開校130周年を迎える。 |
| 2008 | 経営学部にて市場戦略学を増設。 |
| 2007 | 大学院に医療健康科学研究科を増設。 |
| 2006 | グローバル・メディア・スタディーズ学部を増設。 |
| 2004 | 大学院法曹養成研究科（法科大学院）を増設。 |
| 2003 | 医療健康科学部診療放射線技術科学科を増設。 |
| 2002 | 駒澤大学開校120周年を迎える。 |
| 2000 | 経営学部で昼夜開講制実施。 |
| 1998 | 経済学部 法学部で昼夜開講制実施。 |
| 1996 | 文学部に心理学を増設。 |
| 1992 | 駒澤短期大学に専攻科を増設。 |
| 1982 | 「学林」設立以来40周年を迎える。 |
| 1972 | 駒澤大学開校100周年を迎える。 |
| 1971 | 法学部に政治学を増設。 |
| 1969 | 法学部と経営学部で第2部を増設。 |
| 1967 | 経営学部を増設。 |
| 1966 | 駒澤短期大学に放射線科を増設。 |
| 1965 | 文学部に地理学・歴史学を増設。 |
| 1955 | 増設。 |
| 1952 | 商経学部第1部・第2部を経済学部第1部・第2部に名称変更し、経済学・商学を増設。 |
| 1951 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1950 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1949 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1948 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1947 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1946 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1945 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1944 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1943 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1942 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1941 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1940 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1939 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1937 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1932 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1927 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1925 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1924 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1923 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1922 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1921 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1920 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1919 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1918 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1917 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1916 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1915 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1914 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1913 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1912 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1911 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1910 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1909 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1908 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1907 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1906 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1905 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1904 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1903 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1902 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1901 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1900 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1899 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1898 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1897 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1896 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1895 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1894 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1893 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1892 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1891 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1890 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1889 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1888 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1887 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1886 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1885 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1884 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1883 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1882 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1881 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1880 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1879 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1878 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1877 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1876 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1875 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1874 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1873 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1872 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1871 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1870 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1869 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1868 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1867 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1866 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1865 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1864 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1863 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1862 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1861 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1860 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1859 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1858 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1857 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1856 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1855 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1854 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1853 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1852 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1851 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1850 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1849 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1848 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1847 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1846 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1845 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1844 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1843 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1842 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1841 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1840 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1839 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1838 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1837 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1836 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1835 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1834 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1833 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1832 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1831 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1830 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1829 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1828 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1827 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1826 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1825 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1824 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1823 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1822 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1821 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1820 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1819 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1818 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1817 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1816 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1815 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1814 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1813 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1812 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1811 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1810 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1809 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1808 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1807 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1806 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1805 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1804 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1803 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1802 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1801 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1800 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1799 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1798 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1797 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1796 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1795 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1794 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1793 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1792 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1791 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1790 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1789 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1788 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1787 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1786 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1785 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1784 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1783 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1782 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1781 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1780 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1779 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1778 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1777 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1776 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1775 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1774 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1773 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1772 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1771 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1770 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1769 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1768 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1767 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1766 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1765 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1764 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1763 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1762 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1761 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1760 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1759 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1758 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1757 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1756 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1755 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1754 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1753 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1752 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1751 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1750 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1749 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1748 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1747 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1746 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1745 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1744 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1743 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1742 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1741 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1740 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1739 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1738 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1737 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1736 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1735 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1734 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1733 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1732 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1731 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1730 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1729 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1728 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1727 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1726 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1725 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1724 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1723 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1722 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1721 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1720 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1719 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1718 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1717 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1716 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1715 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1714 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1713 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1712 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1711 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1710 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1709 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1708 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1707 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1706 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1705 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1704 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1703 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1702 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1701 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1700 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1699 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1698 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1697 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1696 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1695 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1694 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1693 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1692 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1691 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1690 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1689 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1688 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1687 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1686 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1685 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1684 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1683 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1682 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1681 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1680 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1679 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1678 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1677 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1676 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1675 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1674 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1673 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1672 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1671 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1670 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1669 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1668 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |
| 1667 | 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。 |

アルバムで振り返る駒澤大学の歴史



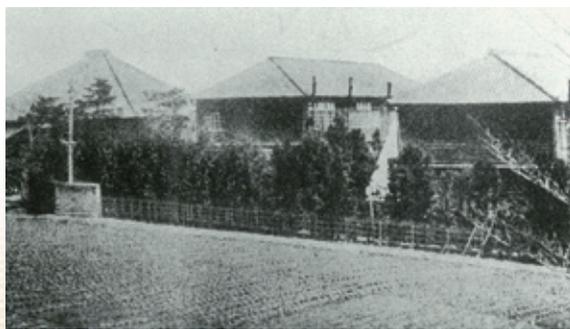
◀1882(明治15)年10月15日
麻布区北日ヶ窪町(現 港区六本木)
で「曹洞宗大学林専門本校」(後、
曹洞宗大学林専門学本校)の開校式
を行う



▲1902(明治35)年
開校20周年記念式典
写真上) 講堂正面
写真左) 正門



1922(大正11)年▶
曹洞宗大学時代の校舎
電柱左が正門
写真左) 図書館
写真中) 大講堂
写真右) 教室



▲1922(大正11)年
図書館第一閲覧室

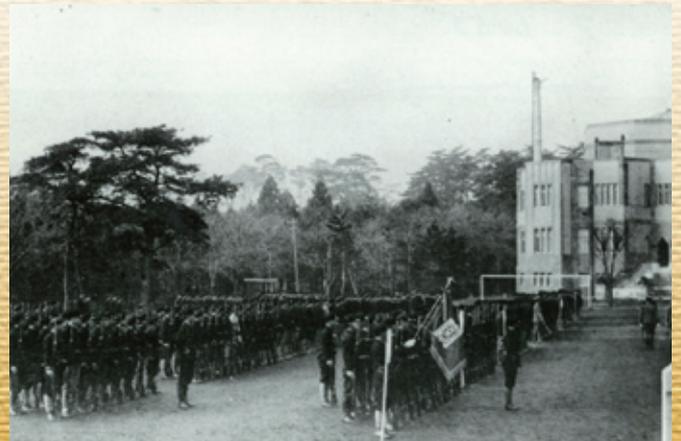
▼1923(大正12)年
玉川電気鉄道(後、東京急行電鉄)
玉川線の駒沢停留所



▲1929(昭和4)年
学生の引っ越し

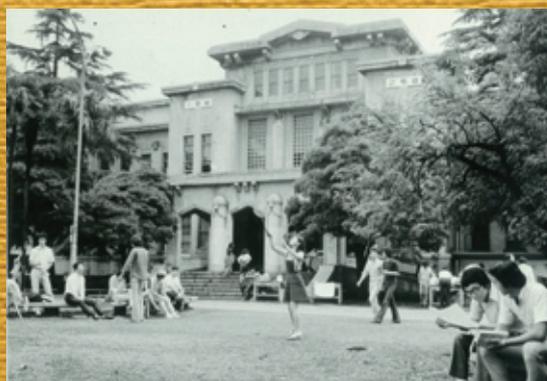


▲1942(昭和17)年
戦時中で、掲示も学生もまぼら



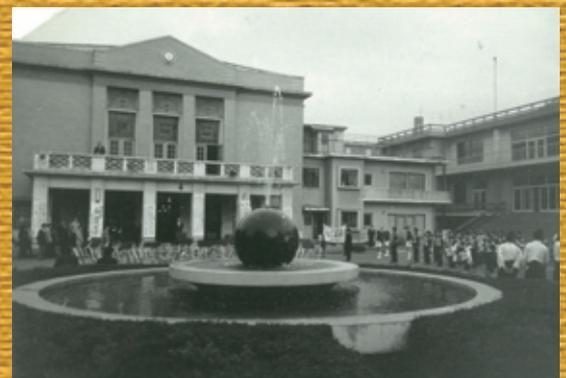
▲大正末期より始まった軍事教練。写真右に見えているのは現 禅文化
歴史博物館

▼1960(昭和35)年
駒沢キャンパスと渋谷校舎を結んだ
スクールバス。
1952(昭和27)年から1961(昭和
36)年まで渋谷校舎があった



▲旧1・2号館。1号館は1925(大正14)年、
2号館は1932(昭和7)年に完成した

▼旧講堂と噴水。噴水は、1965(昭和40)年から本部棟が
建設される1980(昭和55)年まで設置されていた。この黒
い丸石は、現在富浦セミナーハウスの入り口に置かれ、今
も学生を迎えている





◀1970(昭和45)年頃
入学試験



▲1980(昭和55)年
本部棟・1号館の建設が着工。現在のキャンパスの風景に

◀1969(昭和44)年
より始まった駒沢大学
前駅設置運動



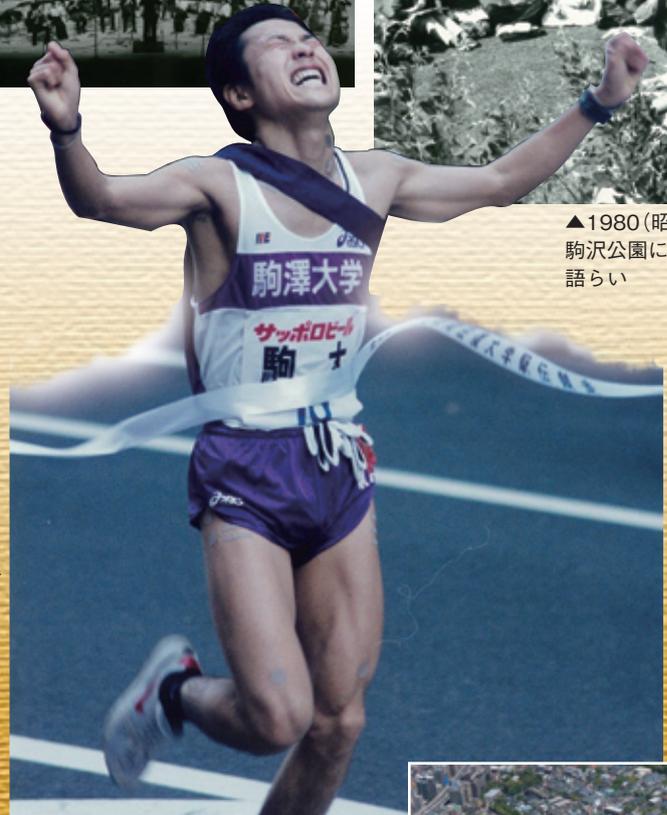
▼1981(昭和56)年
全日本吹奏楽コンクールで10年連続金賞を受賞



▲1980(昭和55)年頃
駒沢公園にて先生との
語り



▲1985(昭和60)年
東都大学野球秋季リーグ優勝。多くの学生が神宮球場へ応援に
駆け付けた



2000(平成12)年▶
東京箱根間往復大学駅伝競走、
初の総合優勝



◀1998(平成10)年
シンボルマーク完成

この10年の動き

2003(平成15)年
医療健康科学部
診療放射線技術科学科を開設
駒澤大学会館246が完成

2004(平成16)年
法科大学院(大学院法曹養成研究科)を開設
コミュニティ・ケアセンター棟が完成

2006(平成18)年
グローバル・メディア・スタディーズ学部
グローバル・メディア学科を開設

2007(平成19)年
経済学部現代応用経済学科を増設
大学院に医療健康科学研究科を開設
深沢校舎が完成
玉川校舎第1体育館が完成

2008(平成20)年
経営学部市場戦略学科を増設



▲現在の駒沢キャンパス

2011(平成23)年
TOP駒大(玉川キャンパス部室棟)が完成

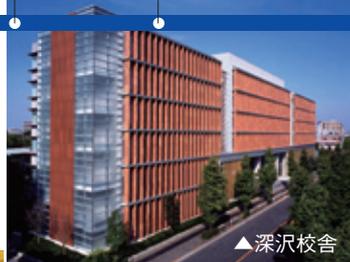
2012(平成24)年
大学院にグローバル・メディア研究科
を設置準備中(2013年4月開設予定)



▲246会館



▲法科大学院



▲深沢校舎

名誉教授のプロフィール

名誉教授の称号は、学校教育法第106条、駒澤大学学則第51条及び駒澤大学法科大学院学則第14条第4項に基づき、教育または学術上、特に功労のあった先生に授与されます。各学部の教授会の推薦により名誉教授審議委員会にて審議され、今年度は、7月25日(水)に授与式が行われました。



仏教学部
池田 魯参先生

池田先生は昭和44年、大学院博士課程修了と同時に助手として本学に奉職され、以来今春3月まで一貫して本学において教育と研究に尽力された。その間、法人理事、仏教学部長、禅文化歴史博物館長等の要職も歴任されておられる。周知のように、ご専門は天台学であるが、先生が絶えず意識されているのは「曹洞宗学」であり、現在は曹洞宗総合研究センター所長としてご活躍中である。今後も後進に対するご指導を切にお願いしたい。

(仏教学部教授 奥野 光賢)



文学部
林 達也先生

林達也先生は、本学に26年の長きにわたって奉職された。その間、学生部長、図書館長、仏教文学研究所長、体育会サッカー部長などを歴任、数々の功績を残された。ご専門の中・近世和歌研究においても第一人者として知られ、例えば、啓蒙的でありながら高水準の連続講義『近世和歌の魅力』(NHKラジオ講座)は、学者の仕事に世に還元する、良き手本である。スポーツ万能で話題豊富、ダンディな林先生のお人柄を慕うファンは多い。

林達也先生は、本学に26年の長きにわたって奉職された。その間、学生部長、図書館長、仏教文学研究所長、体育会サッカー部長などを歴任、数々の功績を残された。ご専門の中・近世和歌研究においても第一人者として知られ、例えば、啓蒙的でありながら高水準の連続講義『近世和歌の魅力』(NHKラジオ講座)は、学者の仕事に世に還元する、良き手本である。スポーツ万能で話題豊富、ダンディな林先生のお人柄を慕うファンは多い。

(文学部教授 近衛 典子)



文学部
早船 元峰先生

先生は1969年に助手として就任。一時期北海道教養部で勤務されたこともあり、富良野盆地を中心とした北海道での侵食地形と土地利用の調査研究はライフワークであった。学外では、川口市安行興禅院のご住職として、植木のまち「安行」の緑地保全に取り組んでこられた。境内の雑木林の自然を生かしたビオトープづくりは、大学や地域の環境教育の実践の場となった。今後も温かなお人柄とユーモアで人を和ませる和尚様でいてください。

(文学部教授 高木 正博)



経済学部
森岡 仁先生

遠くない将来わが国の人口は半減すると予想される。人口減少は高齢化という副作用を併発させるという。近未来のこの国の姿は、一体どんなものになるのだろうか。厄介だが避けて通れない肝心の問題に対し一向に解決のさざしが見えず堂々めぐりが続いている。

青年の活気と老練の智慧を合わせ備えた森岡先生の定年は、この難問に対する光明が示されるまで、しばらくお預けである。先生のすこやかな道行きのながからんことを祈る。(経済学部教授 浅野 克巳)

青年の活気と老練の智慧を合わせ備えた森岡先生の定年は、この難問に対する光明が示されるまで、しばらくお預けである。先生のすこやかな道行きのながからんことを祈る。(経済学部教授 浅野 克巳)



法学部
相田 敏彦先生

先生は東京大学大学院のご出身で、NHK勤務を経て1988年、本学にマス・コミュニケーション論担当教員として奉職されました。幅広い視座と豊富な経験による教育は学生の興味を喚起し、先生のゼミはマスコミ関連就職を目指す熱心な学生が多く、常に活気に満ちていました。長年の実務経験に基づく研究は、それまでのコミュニケーション論を批判しつつもそれをさらに掘り下げる手法をとり、メディア分野の研究発展に多大な貢献をされています。(法学部教授 浦田 早苗)



経営学部
前田 和利先生

前田先生は、1969年に明治大学大学院経営学研究科をご卒業後、本学部には1970年に赴任されました。ご専門は経営史ですが、特に百貨店についてのご研究は、斯界でも高く評価されているとのこと。1993年には経営学部長となられ、当時の課題であった学部カリキュラムの改革に辣腕をふるわれました。また、1999年からは、大学院研究科委員長を2期務められ、大学院教育にも貢献なされました。退任後は、趣味の絵を楽しんでおられるとのこと。 (経営学部教授 滝田 公一)

前田先生は、1969年に明治大学大学院経営学研究科をご卒業後、本学部には1970年に赴任されました。ご専門は経営史ですが、特に百貨店についてのご研究は、斯界でも高く評価されているとのこと。1993年には経営学部長となられ、当時の課題であった学部カリキュラムの改革に辣腕をふるわれました。また、1999年からは、大学院研究科委員長を2期務められ、大学院教育にも貢献なされました。退任後は、趣味の絵を楽しんでおられるとのこと。 (経営学部教授 滝田 公一)



総合教育研究部
佐原 作美先生

佐原先生は本学のご出身で、昭和44年文学部国文学科助手に就かれた後、47年北海道の苫小牧駒澤短大に奉職、57年より東京の駒澤短大に移られて、平成18年短大廃止後は駒澤大学総合教育研究部日本文化部門教授として本年3月に定年退職を迎えられました。平成7年より2期4年短大国文科主任、同13年から2期4年短期大学部長を務められ、その温厚篤実、緻密なお人柄をもって短大の改組問題等々に真摯に取り組まれました。

(総合教育研究部教授 坂口 博規)



総合教育研究部
牧野 茂先生

牧野先生は、昭和43年に駒澤大学に就任され、その後44年間に渡り「健康とスポーツ」について、熱心に学生の指導にあたられた。保健体育部時代には、保健体育部長も3期務められた。ご専門のバスケットボールでは、本学バスケットボール部の部長・監督として長年ご指導にあたり、また、学外においても、関東学生バスケットボール連盟理事などでのご活動を通して、学生バスケットボール界の発展にもご尽力されています。

牧野先生は、昭和43年に駒澤大学に就任され、その後44年間に渡り「健康とスポーツ」について、熱心に学生の指導にあたられた。保健体育部時代には、保健体育部長も3期務められた。ご専門のバスケットボールでは、本学バスケットボール部の部長・監督として長年ご指導にあたり、また、学外においても、関東学生バスケットボール連盟理事などでのご活動を通して、学生バスケットボール界の発展にもご尽力されています。

(総合教育研究部講師 山口 良博)



総合教育研究部
野島 利彰先生

先生は三十数年に及ぶ在職中、総合教育研究部長など数々の要職を歴任され、本学に大いに貢献されました。広く世界を見渡され、その中で偏らない立場を模索する、というのが先生の信条であったかと推察します。だがただ一つの事柄、自然のあり方には並外れた関心を抱いておられ、それを労作『狩猟の文化』に結実されました。健康問題と無縁でなかった野島先生が無事停年を迎えられたことを、同僚一同、心からお喜び申し上げます。

(総合教育研究部教授 松岡 晋)

平成24年度科学研究費助成事業 48件採択

科学研究費助成事業（科研費）は、人文・社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を対象とした「競争的研究資金」です。文部科学省または独立行政法人日本学術振興会が審査し、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対し助成が行われています。

本学では新規・継続あわせて48件が採択されました。

平成24年度 科学研究費助成事業採択者 ※GMS学部＝グローバル・メディア・スタディーズ学部

| 研究種目 | | 所属学部 | 職名 | 氏名 | 研究課題 |
|-----------------|---------|---------|--------|--------------------------------------|--|
| 基盤研究(B) | 継続 | 文学部 | 教授 | 飯島 武次 | 中国渭河流域における先周および西周文化の総合調査 |
| | 継続 | 法学部 | 教授 | 北野 かほる | 紛争解決制度化の比較史—前近代における「裁判」と「裁判外」— |
| | 継続 | GMS学部 | 教授 | 白水 繁彦 | 多文化社会の排除と包摂の論理：ハワイにおける文化創生をめぐる民族間交渉と戦略 |
| | 新規 | 仏教学部 | 教授 | 石井 公成 | 古代東アジア諸国の仏教系変格漢文に関する基礎的研究 |
| | 新規 | 文学部 | 教授 | 土谷 敏治 | 超高齢社会に向けた大都市圏縁辺地域のモビリティ満足度に関する地理学的研究 |
| 基盤研究(C) | 新規 | 総合教育研究部 | 教授 | 伊藤 茂樹 | 少年院における更生的風土の形成と展開に関する教育学的研究 |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 近衛 典子 | 日本近世期における中国白話受容の研究—『陰陽録』を中心に— |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 櫻井 陽子 | 覚一本『平家物語』の選行と伝播・受容についての基礎的研究 |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 土井 光祐 | データベース構築に基づく明恵関係書類の記述的研究 |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 須山 聡 | 「まとまり」と「つながり」の観点からみた島嶼性に関する地理学的研究 |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 橋詰 直道 | 高齢化時代の別荘型超郊外住宅地における居住者特性と居住環境に関する研究 |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 酒井 清治 | 東日本における初期仏教寺院導入期の考古学的研究 |
| | 継続 | 文学部 | 准教授 | 佐々木 真 | ルイ14世の戦争指導—フランス絶対王政論の再検討 |
| | 継続 | 文学部 | 准教授 | 李 妍姝 | 中国の市民社会に良い影響を与えるために：仕組み作りと意識変革のための実践的研究 |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 有光 興記 | 自己への思いやりに焦点を当てた認知行動療法プログラムの開発 |
| | 継続 | 経済学部 | 教授 | 渡邊 恵一 | 戦前期日本の鉄道事業における「公共的性格」の再検討 |
| | 継続 | 法学部 | 教授 | 内海 麻利 | 都市マネジメント主体の変化と実態：フランスの住民参加手続・公定化手続に着目して |
| | 継続 | 法学部 | 教授 | 中野 裕二 | フランスにおける市民参加の実態と理論に関する研究：「共和制モデル」変容の視点から |
| | 継続 | 法学部 | 教授 | 三船 恵美 | 中国の対中東外交と「真珠の真珠」戦略が日米に及ぼす影響 |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 教授 | 久保 陽一 | ヘーゲル論理学の発展史のおよび分析哲学的研究 |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 准教授 | 小川 順敬 | 沖縄久米島の家系資料群の研究 |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 准教授 | 矢野 秀武 | 近現代タイにおける非政教分離的な宗教行政に関する総合的研究 |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 教授 | 鈴木 裕子 | 平安・鎌倉物語文学の享受と展開に関する総合的研究—絵と本文の不連続性について— |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 准教授 | 小沢 誠 | 結び目の位置と曲面 |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 講師 | 上田 倫史 | L2学習者の語彙理解の深度を測定する包括的な語彙テストと学習支援システムの構築 |
| 継続 | 法曹養成研究科 | 教授 | 若林 亜理砂 | フランチャイズにおける不正な取引方法についての総合的検討 | |
| 新規 | 仏教学部 | 教授 | 金沢 篤 | 近代日本に於けるインド学仏教学の成立と展開—その書誌学的、文献学的研究— | |
| 新規 | 経済学部 | 准教授 | 鈴木 伸枝 | 離脱可能な組織を通じた公共財供給 | |
| 新規 | 経済学部 | 准教授 | 矢野 浩一 | ゼロ金利制約下の大規模ショックによる経済変動と政策対応の計量分析 | |
| 新規 | 経営学部 | 准教授 | 羽田 尚子 | 寄付のインセンティブと被助成団体の特性に関する実証分析 | |
| 新規 | 総合教育研究部 | 教授 | 西村 祐子 | 移民流入と伝統的低位職の地位変更に関する考察：比較研究の視点から | |
| 若手研究(B) | 継続 | 文学部 | 准教授 | 高橋 健太郎 | 中国における回族の宗教的・経済的ネットワークと地域社会の変容に関する研究 |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 唐澤 一友 | 韻文および散文の『メノロギウム』：唐学教育との関連から |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 田中 靖 | 航空機レーザ計測データを用いたプロセッサ型地形シミュレーションモデルの構築 |
| | 継続 | 経済学部 | 准教授 | 北口 りえ | 未実現利益への課税がもたらす課税所得概念の変容 |
| | 継続 | 経済学部 | 准教授 | 松本 典子 | 日本における労働統合型社会的企業モデル構築のための国際比較研究 |
| | 継続 | 法学部 | 講師 | 奥村 公輔 | 立法手続法の体系化 |
| | 継続 | 経営学部 | 准教授 | 岸田 隆行 | 予算管理の運用方法とその効果に関する実証研究 |
| | 継続 | 経営学部 | 准教授 | 中野 香織 | 「符号化変動性仮説」に基づく複数メディアによる相乗効果の検討 |
| | 継続 | 医療健康科学部 | 教授 | 森口 央基 | FOCUSを用いたMRI高速撮像法の画質改善 |
| | 新規 | 文学部 | 准教授 | 荒井 浩道 | ピアサポート機能に注目した認知症家族会の運営マニュアルの開発と評価に関する研究 |
| | 新規 | GMS学部 | 准教授 | 吉田 尚史 | マルチメディアデータベースを対象とした即時分析及びメタデータ自動抽出 |
| | 新規 | 総合教育研究部 | 講師 | 勅使河原 三保子 | 自分の発言に自信と誇りを持って話せる日本人英語学習者の育成に向けて |
| 研究活動スタート支援 | 新規 | 文学部 | 講師 | 高田 良太 | 中世後期クレタにおけるヴェネツィア人とギリシア人の「共生」の構築過程 |
| 研究成果公開促進費(学術図書) | 新規 | 総合教育研究部 | 講師 | 三木 望 | パラルコーパスによる日本人英語学習者のライティングの分析 |
| 特別研究員奨励費 | 新規 | 文学部 | 教授 | 櫻井 陽子 | 『平家物語』本文考 |
| | 新規 | | | 角道 亮介 | 殷周時代における礼制の成立とその展開に関する研究 |
| | 新規 | | | 岸本 泰緒子 | 銅鏡の流通と拡散—戦国秦漢期を中心に— |

科学研究費(人文地理学)による調査研究

文学部地理学科教授 橋詰 直道

総務省の人口推計によると、日本の高齢化率はすでに平成19年に21.5%に達し、文字どおり超高齢社会に突入している。700万人ともいわれる団塊世代の定年が本格化する中で、彼らが老後をどこでどう過ごすかが社会的関心事となっている。東京の都心から70～100km以上離れた千葉県や栃木県、群馬県、静岡県には、東京への通勤は限界に近いが、自然環境に恵まれ、ゴルフ場も多く立地することなどから、団塊世代を中心としたリタイア層が多く居住する住宅地がある。今日、これらの超郊外別荘型住宅地では、高齢化の進展に伴い様々な問題が生じてきている。

筆者は、平成22年度から「高齢化時代の別荘型超郊外住宅地における居住者特性と居住環境に関する研究」というテーマで科学研究費補助金の助成を受けて、千葉県外房地域の勝浦市(写真)と御宿町、栃木県さくら市などの住宅地を事例に住民へのアンケート調査を通して超郊外別荘型住宅地の抱える諸問題の解明に取

り組んでいる。

千葉県内で事例とした2か所の住宅地は、豊かな自然の中で快適な第二の人生を送るために首都圏から移動してきた富裕層によって「終のすみか」として選択されたリゾート型住宅地である。彼らは、別荘として利用した後、定年を機にスローライフを満喫するために転入した者も多く、彼らの定住化により高齢化がますます進行している。また、公共交通手段が脆弱なこうした超郊外住宅地の住民は、加齢に伴い買い物や通院などが不便になるばかりか、老後の不安が増大するなど、リゾート型超郊外シニアタウンならではの危うさも垣間見える。



勝浦の別荘型住宅地

仏教行事について

太祖降誕会

仏教学部教授 佐藤 秀孝

成道会

仏教学部教授 永井 政之

後世「鎌倉新仏教」と称せられる新宗派が鎌倉時代に形成されたが、いずれも当初は天台・真言の顕密仏教に比して、異端の小集団にすぎなかった。始祖とは別に宗団を飛躍的に発展させる基軸となった祖師が各宗に現われている。浄土真宗に蓮如があり、日蓮宗に日親があり、時代は下るが臨済宗の白隠慧鶴のごときがそれに当たろう。



曹洞宗において越前(福井県)永平寺の道元(1200~53)の教えを全国規模で躍進させる原動力となったのが、能登(石川県)總持寺を開いた瑩山紹瑾(1264~1325)にほかならない。京都・鎌倉の臨済宗五山叢林(五山十刹)が朝廷や幕府の庇護を得て君臨したのに対し、曹洞宗は地道な地方展開を図って南北朝・室町時代から戦国時代にかけて地方武士や農民層に飛躍的に浸透していった。現今、日本全国に15000ヶ寺を擁する曹洞宗寺院の多くがこの時期に建立されている。道元の純粹な坐禪(只管打坐)の法門が受容されたというより、血脈授与や葬送儀礼など禪家の持つ莊嚴な儀式が時代の人々のニーズに符合したのである。

瑩山が世に出現しなかったならば、おそらく曹洞宗は北陸の片隅に微々たる宗団として留まったにすぎず、我が駒澤大学なども存在しなかったことだろう。現今、曹洞宗では道元を高祖承陽大師、瑩山を太祖常済大師と仰ぎ、仏陀釈尊とともに「一仏両祖」と称えている。そんな瑩山の生誕の日とされるのが「太祖降誕会」である。

ブッダが菩提樹の下で坐禪をされ、悟りをひらかれたとされる12月8日には、お祝いの意味で成道会が営まれます—成道は仏道が完成するの意—。現在でも12月1日から8日早朝まで、禪の道場では昼夜を分かたず坐禪し、自らもブッダの境地に到るを期して「臘八撰心」—12月が「臘月」と呼ばれることから「臘八」と呼ばれます—が行われます。ただし学問的にみれば、中国の民間で営まれた収穫を祝う12月8日の祭りと、ブッダの成道とが結びつく過程にはいささかの紆余曲折があったようです。

6世紀成立の『荆楚歲時記』によれば、この日、金剛力士の像を祀って疫病をはらい、沐浴して罪障消滅を祈ったとされます。成道について、直接の言及はありませんが、人々の意識の底ではどうだったのか、興味深いところです。

北宋になると、悟りを重視する禪宗が大きく展開したこともあって、さまざまな行事や法要が定期的に行われるようになります。お寺が竜眼や栗、棗や慈姑を炊き込んだ「臘八粥」を信者に配布するようになったのもこの頃です。

南宋の禪を学んだ道元禪師の、建長2年(1250)12月8日の説法。「日本国、先代、曾て仏生会・仏涅槃會を伝う。然り而して未



だ曾て仏成道會を行うを伝えず。永平、始めて伝えて已に二十年なり。今より已後、尽未來際、伝えて行ずべし。」

仏に成るとともに、仏であることを自覚する、自分こそがブッダの坐禪を伝えたと確信し、終生、坐禪を重視された道元禪師ならではの発言でしょう。

研究こぼれ話

ドイツ自然科学博物館

医療健康科学部教授 小川 雅生



2度、3度と訪れたい科学博物館はドイツのミュンヘンにある自然科学博物館である。これはミュンヘン観光スポットのマリエンプラッツからSバーンで1駅、徒歩でも15分の距離にある。近代から現代までの自然科学の発展の様子を子どもから大人までが楽しむことができるように展示内容が工夫されている。展示物の中には動作するものや、手を触れることができるものがある。地下には昔の鉱山の様子が再現されており、古楽器の展示室では職員が実際に楽器を演奏してみせる。

10年ほど前に訪ねた際に、オットー・ハーン達の研究ログノートが展示されているのに出会った。1938年12月16~17日に彼らが原子核分裂を発見したときのページが開かれていた。研究ログノートを見れば自然科学の発見がなされた年月日が判明し、ログノートは世界で最初に発見したことの証拠となる。ノートブックの重要な機能は記録が時系列になっていることである。パソコンに入力した記録は改ざんができるため、証拠価値が低くなる。原子核分裂発見の歴史的証拠を写真に撮る目的で、数年後に自然科学博物館を訪ねたが、上記の展示はすでに片付けられていた。残念。

2010年9月に4度目の訪問機会を得た。ドイツのダルムシュタット工科大学で開かれた重イオン慣性核融合国際シンポジウムに参加した後、ミュンヘンまで足を伸ばすことにした。お目当ては、「レントゲンによるX線発見」の展示であり、その写真を後日、授業で使用した。なお、今回は見学する対象が限定された駆け足の訪問であった。5度目の訪問を今から楽しみにしている。

会社法と大岡裁き

法科大学院教授 春田 博



二十四の瞳ではないけれど、そろそろ四半世紀前、亡き叔父から上告理由の案出を頼まれた。新年会の後、新宿の喫茶店での話である。当時ほぼ取得が禁じられていた自己株式をことさらに子会社で取得して売却し、多額の損が生じたため、株主が訴訟を提起したすでに公知の事案絡みで、時間は切迫していた。けれど思えば損失は子会社に属する。なら親会社でケリをつけても筋違ではないかと、そう話したら論文が欲しいとさらに頼まれ、これも応じた。結局敗訴が確定し、事件はその後判例集に載った。

ところで、私見の如く考えれば親子会社は別物となるけれど、親が子を訴えるはずもない。では親会社株主は代わりに子会社役員を提訴できるか。米国ではこれを当然視してすでに対孫会社役員まで肯定例がある。それが筋ではないかと後日別論文で紹介もしたが、知る人すら少ない少数意見。日本の裁判所は代表訴訟提訴可能株主を当該会社の株主に限定し、下層会社への提訴を決して認めなかった。なので、銀行の持株会社移行は代表訴訟の遮断目的かと噂されたりした。

ところが、このたび、多重代表訴訟として、下層会社役員への代表訴訟提起を許容する制度が立法化される。隔世の感である。同時に、親子は他人か一体かが、会社法の世界でこれから問われることになる。持株会社解禁は前者の認識に立ち、トンネル会社といえは後者を常とする。とすれば、下層会社の役員は一体誰の利益を最優先すべきか。この点を考えれば真の問題の顕在化はむしろ制度化以後であろう。議論はまだ終わりそうにない。何やら大岡裁きの古事すら思い出される昨今である。

この賞は、平成19年度より従来の学長賞・学長奨励賞に加え、新たに在校生の学業成績優秀を対象として、学業意欲を喚起することを目的に制定され、各学科・専攻ごと、2・3年次生は過去1年間の成績により上位者若干名、4年次生は過去3年間の成績上位者若干名に授与されるもので、今年度は222人が授与されました。

※ただし、2・3年次生は対象年度の卒業必要科目の修得単位数が40単位以上（医療健康科学部は2年次生35単位以上、3年次生31単位以上）、4年次生は3年間の卒業必要科目数合計単位数が110単位以上であること。更に新年度の学籍を取得していることが推薦基準となっています。

<仏教学部禅学科>

【2年次生】米積雄大・吉田谷龍太郎

【3年次生】和田徹生・鳥谷部隆芳

【4年次生】黒金正寛・吉村貢

<仏教学部仏教学科>

【2年次生】木村康信・松田瑞生・五味駿希

【3年次生】織田雄三・井上舞子・三島秀典

【4年次生】岸島正明・鬼頭誠道・土井操

<文学部国文学科>

【2年次生】大林加奈・石野裕彦・井出涼花

【3年次生】山口彩・小島直人・渡辺裕乃

【4年次生】鈴木真弓・内山美穂子・二村和樹

<文学部英米文学科>

【2年次生】齋藤陽菜・大隅理紗・野本紘

【3年次生】柳沙佑美・小林美菜穂・横川貴亮

【4年次生】佐藤祐加・高橋明希・野崎翔吾

<文学部地理学科地域文化研究専攻>

【2年次生】吉田愛・松浦誠

【3年次生】細田貴洋・井上彰太郎

【4年次生】清田朋子・大瀧夏海

<文学部地理学科地域環境研究専攻>

【2年次生】加藤浩・野澤綾子

【3年次生】山田加奈子・西ヶ谷美貴

【4年次生】石川美風香・大迫成史

<文学部歴史学科日本史学専攻>

【2年次生】中野翔・佐藤由梨

【3年次生】塩川実花・中井詩織

【4年次生】高橋務・舟久保大輔

<文学部歴史学科外国史学専攻>

【2年次生】黒川恭平・岸真理子

【3年次生】橋口詩織・平山未歩

【4年次生】新田真子・江口健太

<文学部歴史学科考古学専攻>

【2年次生】生出美奈

【3年次生】羽生奈央

【4年次生】水野華菜

<文学部社会学科社会学専攻>

【2年次生】齋藤結美香・平山温子

【3年次生】益子蒔乃・佐藤俊介

【4年次生】岸野まな美・古谷沙織

<文学部社会学科社会福祉学専攻>

【2年次生】陶嘉祥・榊理恵

【3年次生】金子容子・手塚彩華

【4年次生】朝倉由唯・山本薫

<文学部心理学科>

【2年次生】井上滉太・浅井貴史

【3年次生】小野寺将・村野恵理香

【4年次生】竹沢美波・深沼萌

<経済学部経済学科>

【2年次生】西村拓毅・平野有希・

塩田枝里佳・岩片未央・

高田晴行・小峰拓磨・渡辺諒

【3年次生】玉村契悟・有馬直人・三澤貴之・

深谷絵美・田中千尋・西塔翔平・

渡邊菜

【4年次生】須藤晴香・大石千尋・菊原宏和・

深野直人・鈴木優也・草野陽子・

山本大二郎

<経済学部商学科>

【2年次生】竹田龍央・土谷聡太・巨夏摘・

小久保莉菜・谷本智美

【3年次生】中島雅人・大澤浩紀・

宮坂佳代子・山本夏帆・大竹咲紀

【4年次生】横田雅美・海老原靖之・

津田菜都美・柳澤舞・李思文

<経済学部現代応用経済学科>

【2年次生】島田海・相田雄貴・露崎絢子

【3年次生】星野裕介・土居純季・鈴木彩乃

【4年次生】藤井恵・井上彩・楊承涵

<法学部法律学科フレックスA>

【2年次生】古谷康平・粕谷英孝・内田愛実・

高野真人・小池泰然・濱野勇気

【3年次生】池田悠二・高橋未果・増永詩織・

阿部正暉・横関友也・根岸香菜

【4年次生】佐々木良次・熊田龍一・

高橋直人・長谷川信人・

小林由依・森田考則

<法学部法律学科フレックスB>

【2年次生】前山慶太・伴久典・大新井美宙・

茂手木藍生

【3年次生】鈴木政光・五十嵐嘉宏・田所悠・

島田里奈

【4年次生】田口彩夏・蟹澤朋子・横田将希・

佐藤健

<法学部政治学科>

【2年次生】齋木光司・川瀬延奈・

海老名美香・布施貴登

【3年次生】吉田絵里香・原澤唯・窪田武穂・

森川千帆里

【4年次生】五ノ井健・近藤祐之・秋葉真理・

根本徹平

<経営学部経営学科>

【2年次生】瀬間久美子・高橋奈美・

山本恵美・吉田峰咲・戸塚亮汰・

佐藤瑞姫・杉本咲

【3年次生】原ゆかり・西澤駿・桂井謙・

上島寿明・福永沙樹・朴炯根・

清水智博

【4年次生】外池英昭・倉野未来里・

嶋村裕之・梶谷彩・湯浅裕之・

宮腰祐介・金泰燁

<経営学部市場戦略学科>

【2年次生】周辰・川上江里子・大久保拓哉・

下谷理菜

【3年次生】加藤拓弥・田中沙樹・田中沙季・

李振凡

【4年次生】李有美・根岸広平・小林知佳・

赤井澤尚史

<医療健康科学部診療放射線技術科学科>

【2年次生】佐々木克樹・岩田薫子

【3年次生】守屋駿佑・小原佑介

【4年次生】木嶋幸太郎・高藤優輝

<グローバルメディア・スタディーズ学部グローバルメディア学科>

【2年次生】伊藤史哉・竹内美歩・

阿曾瑠衣子・巢山理央・

森屋梨香・高橋美邑菜

【3年次生】大矢有里子・大澤麻未・

奥貫真知・齊藤匠平・川崎智央・

近江谷志織

【4年次生】榎峯三紗・吉岡結花・茂呂遥・

松村千尋・松井智子・染谷菜

新たに1人に平成23年度学長奨励賞が授与されました。

○研究・文化体育活動の分野で目覚ましい活躍をし、大学の名誉高揚に著しく貢献した者〈個人の部〉〈体操競技部〉

<経済学部現代応用経済学科>【4年次生】池田正美 ●第65回全日本体操競技団体・種目別選手権大会 女子種目別跳馬 第7位

国際交流体験レポート

本学では9つの国・地域の
15大学と協定を結んでいます。

ブリティッシュ・コロンビア大学 語学セミナー

法学部政治学科2年 向山 厚弥



カナダに行って一番驚いたことは、自分が今どの国にいるのか忘れてしまうほど、移民が多かったことです。カナダだけではなく本当に様々な国の人たちと関わることができ、自分にとって刺激になりました。バンクーバーは海や山などの大自然に囲まれていて、大学内や住宅地にゴミが落ちてということがなく、とても素敵な場所でした。大学内で野生のリスを見かけることもよくあり、ホームステイ先の近くのバス停で野生のウサギを発見した時は驚きました。

また、バンクーバーの人たちは環境問題にすごく関心を持っていて、それに比べると、日本人たちはまだまだ環境問題への意識が足りないと感じました。

平日は現地の大学に通い、放課後は友達と観光したり、現地の大学生と映画を観たりビーチに行ったりしました。そして、日曜日はホストファミリーと教会に行ったり海辺でピクニックをしたりして、とても楽しかったです。また、週末はアメリカのシアトルにも遊びに行きました。

ホストファミリーや現地の大学生や先生などバンクーバーの人々はとても親切で、私たちの話す英語にいつでも耳を傾けてくれたので、英語を話す機会はたくさんありました。私は日本人同士で話す時なるべく英語を使うようにしていたので、たとえ3週間という短い期間だとしても、本人の変わりと思う気持ちや努力があれば、英語の力は格段に上がると思います。私は帰国する直前、自分でも信じられないくらい、英語を話すことに抵抗を感じなくなっていました。

また、3週間という期間は想像していたよりもとても短く、こんなに時間が早く過ぎるのを感じたのは人生で初めてというくらい、毎日がすごく充実していました。またいつか絶対にバンクーバーへ行き、ホストファミリーにもう一度会いに行きたいと思っています。

アーカンソー工芸大学 交換留学

GMS学部GM学科4年 松井 智子



私はアメリカのアーカンソー工芸大学へ約1年間交換留学をしました。そこで学んだこと、自主的に動いたことは、将来を見据えるとても良い機会となりました。その留学を通して成長できた体験談を綴っていこうと思います。

一つ目は、自分の研究課題である「アメリカに滞在している留学生間におけるマナーの普及」についてのアンケート調査を行ったことです。アメリカにいる留学生という身分で、どのようなマナーがアメリカ独自のものであるかなど、質問項目を日々書き留め、インタビューを自分から積極的に行いました。この経験を通していろいろな発見や文化の違いを知ることができ、自身の成長へ大きな影響をもたらしました。ここで得た体験やデータを卒業論文に向けてしっかり分析していきたいと思っています。

次に、留学先での授業態度を省みたいと思います。私は授業中でのディベートでは必ず何か意見を言うという姿勢を貫き、良い意見が浮かばなくても思いついたことを言うように心掛けました。自分の主張に自信がなくてもアメリカ人は人の意見をしっかりと聞いてくれることも知りました。特に、日本での例などを挙げると興味を持って質問をしてくれ、授業中は絶え間なくトピックに関する会話が飛び交っている様はとても新鮮に映りました。また、クラス内でアメリカ人に笑顔で自ら話しかけ、よき聞き相手になることで、友人を増やしていったことも自信につながりました。

三つ目は、留学中に毎日英文日記を付け続けることができたことです。内容はその時思ったことや、その日にあった出来事などを書きました。これにより、留学が始まったばかりの時の自分と帰国間際の自分を比べると、成長が目に見えてわかるようになりました。楽しかった日々や、困難に向き合った日々などが日記に残っているので、今ではそれは思い出の宝となっています。今後またたびこの日記を読み返して、その時よりさらに自分を高められるようにしていきたいと思っています。

この留学を通して本当に様々な経験をする事ができました。アーカンソー工芸大学への交換留学生として私を選んでいただき、駒澤大学には本当に感謝しています。留学で得た知識や教訓、体験をしっかりと将来に活かせるように頑張りたいと思います。

※GMS学部GM学科＝グローバル・メディア・スタディーズ学部グローバル・メディア学科



アメリカ

アーカンソー工芸大学
(アーカンソー州)
カリフォルニア大学
アーバイン校
(カリフォルニア州)
カリフォルニア州立大学
ロサンゼルス校
(カリフォルニア州)
ハワイ大学 マノア校
(ハワイ州)



カナダ

ブリティッシュ・コロンビア大学
(ブリティッシュ・コロンビア州)



オーストラリア

クィーンズランド大学
(クィーンズランド州)
グリフィス大学
(クィーンズランド州)



イギリス

エクセター大学
(デボン州)
キングストン大学
(ロンドン郊外)



エジプト

カイロ大学 (カイロ市)



台湾

淡江大学 (台北市)



フランス

プロヴァンス大学
(プロヴァンス地方)



中国

北京大学 (北京市)
華東師範大学 (上海市)



韓国

東国大学校 (ソウル市)



国際センターより お知らせ



クィーンズランド大学・ 来日プログラム



■ ボランティア学生の募集

本学協定校のオーストラリア・クィーンズランド大学の学生17人が日本語・日本文化を学ぶため、平成24年11月22日(木)～12月16日(日)の間、駒澤大学にて研修を行います。研修期間中、留学生の学習・生活を支援し、彼らと交流を持ってみませんか？

興味のある学生はぜひ募集説明会へご参加ください。英語力は特に必要ありません。

▼ 募集説明会

| | |
|----|----------------------------|
| 日時 | 10月19日(金) 12時15分～12時50分 |
| 場所 | 1号館203教場 |



■ ホストファミリーの募集

留学生のホームステイ家庭を募集します。通学に便利な近距離の家庭を希望します。

▼ ホームステイ期間

11月24日(土)～12月8日(土)

※詳細については国際センター事務室にお問い合わせください。

TEL(03)3702-9732

ゼミ長と創る私たちのゼミ Aくんへのメールから

先日のゼミ合宿、よくがんばりましたね。調査インタビューがどれほど難しいか肌で感じたと思います。自分のことで精いっぱいのはずなのに、きみが2年のゼミ生みんなの士気を高めるためにずいぶん心を砕いていたこと、よくわかりましたよ。ごくろうさまでした。

さて、新しくゼミ長になったきみにほくの考えるゼミのありかた、そしてゼミ長の役割を話しておきたいと思っています。



大学は生涯の友人をつくる場所でもあるので、ゼミ長の役割の第1は、ゼミへのアイデンティティをつくりだすこと。言いかえれば「自分にとってゼミは心の拠り所だ」という気持ちを創りだすこと。

第2に、サークルではなく「ゼミ」なのだから、ゼミ生が知的に成長するような雰囲気をつくりだすこと。きみが尊敬する先輩ゼミ長のTくんは人一倍ほくの授業に熱心に参加し、ほくの言いたいことを理解しようと努めていました。もちろんゼミの予習もしっかりしてきます。だからほかのゼミ生より社会学やゼミの課題の内容をずっと深く理解しています。ゼミでは、みんなに発言させたうえで、自分の意見をきちんとまとめて話します。自分がわざわざ主役になることはありません。しかし、みんなが心の中でかれが主役であることは認めています。

ほくのゼミの究極の目的は、生涯にわたって「知的に成長したいとねがう人間を涵養するインキュベーター」です。きみはずでにゼミ生にアイデンティティを植え付けつつあります。あとは「ゼミ長の役割」の第2の部分だけをどれだけ果たせるか、期待していますよ。共にがんばりましょう。

サークル訪問 135回

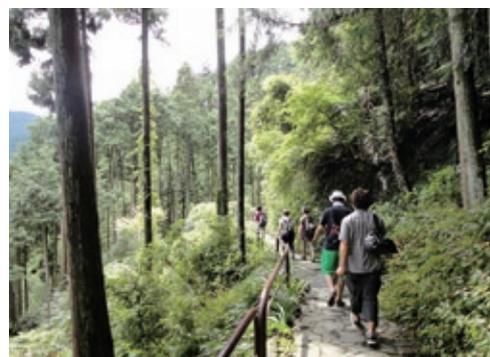
探検部



「探検部」と聞いて、みなさんはどのような活動を思い浮かべますか。1970（昭和45）年に創立された探検部は、「みんなで楽しもう」をモットーに、今までやりたくても実現できなかったこと、諦めていた様々なことへ全力で挑戦するサークルです。

今年度の部員数は、総勢151人。年間の活動内容は、部員の中から募集したアイデアをもとにし、駒澤大学内にある談話室にて日々話し合いを行って決定しています。今年の新入生歓迎会では、JR山手線一周を14時間かけて完歩し、新入生との親睦を深めるきっかけを作りました。そのほかにも、年間の活動内容としてメイド喫茶への来店、ハンバーガー100個を完食、バケツサイズのプリンを製造、未開拓の地や人気のスポットへの探検、心霊スポット巡りといった部員の様々な企画を実行していきます。もちろん、新入生が企画をたてることも可能です。ま

た、伝統行事として夏合宿・秋旅行を毎年欠かさず行っています。主に島民の少ない島に赴くことが多く、旅行中はテントを張って自炊で生活することもあります。インタビューの最中に、部長の小田川大輝さんは、「伝統行事



を引き継いでいく。」という熱い思いを語られていました。

学生時代のうちにしかできない。けれど、まだ実行できていないこと。本当は、挑戦してみたいけど一人では実現できなかったこと。そん

な思いを抱えている方はいませんか。探検部の151人は、みなさんの想いを全力で実現してくれます。大学生活における“やり残し”がないように、探検部の活動に参加してみませんか。

（学生記者 文学部歴史学科
4年 山下 朝子）



オータム フェスティバル 2012



ついに！この時期がやってきた。
8回目となる駒澤大学の学園祭、
オータムフェスティバル2012!!
前年度にも増して多くの企画や模擬店
が並びますので、ぜひお越しください。

日時：11月3(土)・4日(日祝)
10:00~18:00 10:00~17:00

場所：駒澤大学 駒沢キャンパス

ロンドンオリンピック
ボクシング バンタム級
銅メダルを獲得しました

駒大OB

清水 聡選手による

トークショー開催決定！

開場時間：11月4日 13:30-

開演時間：14:00~15:00

場所：1号館

ゼミ・サークル・学生有志による
模擬店・ライブ・研究発表も
数多く行われます。

タイムスケジュール
↓↓↓↓↓

モーモールルギャバン
×
THE MIRRAZ
11月4日(日祝) 記念講堂
開場 16:00~
開演 17:00~
音楽ライブ

注目イベント
目白押し!

11月3日

開会式(■)
10:00~10:30

BINGO大会
(8号館)
12:30~

お笑いライブ(●)
16:00~17:00

第2部パフォーマンス
14:30~16:30

坐禅会
(禅研究館)
12:50~13:35
14:00~14:45

フリーマーケット(▲)
10:00~16:30

駒澤フレンドパーク(▲)
10:00~17:00

THEパフォーマンス駒沢(■)
カラオケ大会
11:00~12:30

ミス駒澤コンテスト2012(■)
プレイベント
13:00~14:00

コンテスト本番
14:30~16:00

スタンプラリー(字内全体)
10:00~17:00

11月4日

なか。たつや
マジックショー&マジック教室(1号館)
12:30~14:30

BINGO大会
(8号館)
12:30~

駒澤大学駅伝応援プロジェクト
駅伝中継(■)
10:00~14:00

閉会式(■)
17:00~17:50
(プレイベントは16:30
~17:00)

主催：オータムフェスティバル2012実行委員会

共催：駒澤大学

協賛：駒澤大学教育後援会

- =記念講堂
- ▲=体育館
- =特設ステージ

※記載している内容は
一部変更の生じる場合があります。

※4日の模擬店・ライブ・研究発表等は
16:00で終了致します。



サークルの活動報告



体操競技部

全日本インカレ・女子2部優勝!! 1部昇格



全日本学生体操競技選手権大会が仙台市体育館で開催された。女子が出場した2部校団体選手権は、8月22日に行われた。前半の2種目(ゆか・跳馬)ではチームメンバー全員がほぼミスのない演技で高得点を重ねたが、続く段違い平行棒でミスが相次いでしまった。

しかし、最終種目の平均台では粘り強さを発揮。最終的には2位の天理大学に7.35という大差をつけて2部優勝を果たし、1部校復帰を決めた。団体メンバーは、荒井(英米4年)・池田(現応経4年)・日巻(心理3年)・石田(市戦略2年)・平塚(現応経2年)・長濱(GM2年)の6人。

なお、男子は1部10位で1部校をキープした。来年度以降、男女とも1部校定着をして、さらに上位を目指したい。

(体操競技部監督 竹田幸夫)



オーストラリアンフットボール部 “マグパイズ”

国際大会日本代表候補に9人選出



オーストラリアンフットボール部“マグパイズ”は日本のトップリーグに属しており、現在リーグ戦期間中です。トップリーグを構成するオーストラリアンフットボールのチームは7チームあり、駒澤大学の他に専修大学や社会人、在日オーストラリア人などでチームが編成されています。9月12日現在、5試合を消化して3勝2敗で3位という成績です。

今年8月には、2014年に聖地オーストラリアで開催される国際大会の日本代表選考会が行われ、“マグパイズ”から9人もの選手が日本代表候補に選出されました。2011年の国際大会の時も代表にマグパイズから4人が選ばれ、日本代表として活躍しました。

駒澤大学の伝統と誇りを胸に、一人ひとりが自分の役割をしっかりと意識して、トップリーグ優勝と、多くの部員が日本代表に選ばれることを目指して日々練習に励んでいきたいと思っています。最初はみんな何も知らないスポーツをゼロから始めるので、どんな方でも大歓迎です。興味のある方は一度オーストラリアンフットボールの試合をぜひ見に来てください。そして、熱い応援をお願いいたします。

駒澤マグパイズHP <http://blog.livedoor.jp/samurais0/>

日本オーストラリアンフットボールHP <http://www.jafl.org/>

(文学部英米文学科4年 主将 佐藤 健)

サークルの活動予定

声援歓迎 みなさんの応援をお願いします

体育会 (17団体)

●アイススケート部

●関東大学アイスホッケーリーグ戦 / 9月17日(月)～11月24日(土) / ダイードリンコアイスアリーナ

●空手道部

●関東学生秋季リーグ戦 / 10月21日(日) / 千葉工業大学

●関東学生空手道体重別選手権大会 / 11月4日(日) / 慶應義塾大学日吉キャンパス

●剣道部

●第60回全日本学生剣道優勝大会 / 10月28日(日) / 大阪府立体育館

●全日本女子学生剣道優勝大会 / 11月11日(日) / 愛知県春日井市総合体育館

●ゴルフ部

●第59回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権 / 10月23日(火)・24日(水) / 千葉カントリークラブ梅郷コース

●第56回信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦 / 10月25日(木)・26日(金) / 千葉カントリークラブ梅郷コース

●サッカー部

●関東大学サッカーリーグ戦 / 9月8日(土)～11月25日(日) / 国立西が丘サッカー場他

●射撃部

●関東学生新人大会及び関東学生AR・SBR大会 / 11月8日(木)～11月11日(日) / 埼玉県朝霞オリンピック射撃場

●準硬式野球部

●東都大学準硬式野球秋季リーグ戦 / 9月～11月 / 八王子市民球場他

●少林寺拳法部

●第46回少林寺拳法全日本学生大会 / 11月4日(日) / 日本武道館

●相撲部

●全日本学生相撲選抜大会 / 11月10日(土)・11日(日) / 国技館

●卓球部

●全日本学生選抜選手権 / 11月24日(土)・25日(日) / 名古屋北スポーツセンター

●体操競技部

●全日本体操競技団体・種目別選手権大会 / 11月2日(金)～11月4日(日) / 代々木体育館

●ボクシング部

●第82回全日本アマチュアボクシング選手権大会 / 11月22日(木)～11月25日(日) / 日野市市民の森ふれあいホール

●競技ダンスクラブ

●第57回全日本学生選抜競技ダンス選手権 / 12月9日(日) / 駒沢オリンピック公園

●硬式野球部

●東都大学秋季リーグ戦 / 9月1日(土)～10月24日(水) / 明治神宮野球場

●ヨット部

●全日本学生ヨット選手権大会 / 10月31日(水)～11月4日(日) / 柳が崎ヨットハーバー

●陸上競技部

●第44回全日本大学駅伝対校選手権大会 / 11月4日(日) / 熱田神宮→伊勢神宮

●チアリーディング部 BLUE JAYS

●第23回全日本学生チアリーディング選手権大会 / 12月8日(土)・9日(日) / 代々木第一体育館

文化部 (3団体)

●吹奏楽部

●第49回定期演奏会 / 12月22日(土) / 昭和女子大学人見記念講堂

●ギタークラブ

●定期演奏会 / 11月23日(金) / 駒澤大学記念講堂

●ギターマンドリン倶楽部

●第42回定期演奏会 / 11月24日(土) / 彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール

『ビジネスマッチング交流会 '12に参加して』

長山ゼミナール 経済学科3年 寺坂 知紘

私たち長山ゼミはビジネスマッチング交流会 '12に参加した。昭和信用金庫（以下、昭和信金）主催の交流会で、販路拡大や新たな連携先発見の場であり、71の企業・団体が出展した。当ゼミでは1年前の交流会 '11にも参加して、これまでのゼミ活動（地域活性化）の成果を情報発信した。このこともきっかけとなり、今年6月には昭和信金と駒澤大学の産学連携協定が締結された。

今回の交流会では、長山ゼミのブースに来訪していただいた方への活動紹介や、他のブースへ訪問して企業経営者からお話を伺った。ゼミ活動の説明をすることの難しさを改めて感じた。また、地域に対して様々な取り組みを行っている中小企業があることを知り、私たち自身の視野を広げることにもなった。今回は、(株)ライフデザインという下北沢の中小企業との出会いがあった。今後、昭和信金の支援を受けて、同社と長山ゼミが下北沢商店街の活性化に向けて、情報交流拠点の企



ビジネスマッチング交流会ブースの様子
画運営を連携して実施していくことが決まった。

また、10月14・15日に昭和信金主催で開催される新宿での物産展「TOKYO 三ツ星 ☆ バザール」にも産学連携協定の一環として参加する。ここでは、長山ゼミが、桜美林大、立正大のゼミと千葉県銚子市で行った地域活性化活動の成果をPRするため、銚子の特産品（さば寿司・ぬれ煎餅・ひしお・魚めん・醤油ラスクなど）の出品を予定している。

◎ビジネスマッチング交流会とは…
企業の成長戦略の実現を支援するもの。各企業からの情報を他社に発信、交流をもつことでビジネスチャンスの拡大等を実現している。

司法試験合格者発表

難関の司法試験5人合格

9月11日、2012年司法試験の合格発表があり、本法科大学院から5人が合格しました。このうち、本年修了者1人を含む4人が未修了者コース入学者でした。合格された皆さまには、教職員一同、心よりお祝いを申し上げます。また、ご支援を賜っております第一東京弁護士会、駒澤大学法科大学院法曹会ほか関係者の皆さまに、厚く御礼を申し上げます。

本法科大学院は、引き続き、自己改革に努め、全力を挙げて在学生・修了生を支援いたします。

(法科大学院教授 對馬 直紀)



キャリアセンターからのお知らせ

○ 自己分析・業界研究をしっかりと

現在の4年生は、それまで10月解禁であった就職活動が12月に、2か月遅くスタートすることになりました。その結果、2極化が起こったといわれています。この2か月間に、自己分析や企業研究・業界研究をした学生としなかった学生の差が大きく、企業側は採用予定数を確保できなかったといわれています。

3年生で「何をしてもよいかかわからない」という学生がいますが、新聞を読む、あるいはキャリアセンターで先輩方の書いた入社試験報告書を読む、大



学へどんな企業から求人が来ているのか、KONECOから求人状況を見るなど、何か一つでもいいので行動を起こしましょう。積極的に活動しないと結果は得られません。

○ 内定取得がゴールではない

「人はなぜ働くのか？」考えたことはありますか。なぜその業界を選んだのか。その会社に入って何がしたいのか、はっきり口に出して言えますか？内定取得を最終目的にしていると、その後の将来が見えてきません。採用する側としては、「この学生は入社後、会社のためにどんな仕事をしてくれるのか」を見たいのです。したがって入社後のビジョンや動機など自己主張をしっかりできるようにしておきましょう。

○ 積極的にイベントに参加を

10月に入り、「しごと研究講座」や「企業セミナー」等のイベントが12月まで毎日のように開催されます。採用担当

◆ 就職活動にあたって

者の話を聴くことにより、企業側が求める人物像を知ることができますし、就職に対する認識も高まります。

もちろん授業優先です。せっかく内定に結び付けても卒業できなければ無駄になってしまいます。4年生になると、会社説明会、OB・OG訪問などで授業に支障をきたさないようにするためにも、3年生のうちのできるだけ多くの単位を修得しておいてください。

○ 社会人基礎力を身につけて

マイナビの調査によると、企業が採用試験で重視する社会人基礎力は①主体性②発信力③実行力④傾聴力の順だそうです。社会人基礎力には、前に踏み出す力、考え抜く力、チームワークで働く力など、12の要素が挙げられています。駒大生はよく「素直で大人しい」といわれています。社会人基礎力を少しでも多く身につけ、声を大きく、明るく元気よく、積極的に活動しましょう。



LMUのキャンパス

今回の滞在先はミュンヘン大学、正式にはルドヴィッヒ・マキシミアン大学(通称LMU)であった。2012年度の夏学期を除き、授業を1コマ担当させてもらった。在外研究のテーマは「チベット仏教における正統と異端」であり、具体的には、チベット仏教において異端とされた教えが、様々な解釈学的方法を用いて正統とされた教えと折衷を図り、いかに自らの立場を復権させたかということである。このテーマに関するテキストを、少人数の学生とじっくり読むことができた。以前ハンブルクに5年間滞在したことがあったものの、もう15年以上も前のことである。すっかり錆びついたドイツ語で行った授業ではあったが、なんとか事なきを得た。

さて、今回ドイツに暮らして感じたことは、日本と比べ、ドイツが省エネ型の社会であるということだ。ドイツにはいわゆる「閉店法」と言われるものがあり、飲食店以外は日曜、祝日

はほぼ休みである。通常の営業時間も短く、日本のコンビニのような終日営業の店など皆無に近い。タバコや清涼飲料水などの自販機もほとんどない。正直、日本の便利な生活に慣れていたので、非常に不便な思いをたくさん経験した。日本でも節電対策の一環として、サマータイム制度が導入され、労働時間の短縮も試みられている。EU(欧州連合)の優等生であるドイツ国民は、確かに勤勉ではあるが、労働効率が高いのか、実質の労働時間が短く、残業もほとんどない。加えて、有給休暇もはるかに多く、人々は余暇の時間を大いに享受している。

現代の大量消費型社会の経済や、自利しか求めない企業の営利追求に警鐘を鳴らすべく、他の人間や地球環境にも配慮した「利他的な少欲知足」という思想がある。自利ばかりではなく、利他的な少欲知足を実践するならば、確かに不便で不自由な生活になるかもしれないが、日本もそろそろ自利と利他を折衷したQOL(Quality of Life)の高い社会をめざしてはいかがなものであろうか。

11/3(土)
第9回

ホームカミングデー《同窓生のみなさん母校へ》

オータムフェスティバル 同時開催

来る11月3日(土・祝日)駒沢キャンパスにおいて第9回ホームカミングデーを開催いたします。この催しは、駒澤大学・駒澤短期大学で学ばれた同窓の皆さまを母校にお迎えし、現在の大学をご覧いただき、さまざまなイベントを通して母校との絆を一層深め、同窓生・教職員・在校生相互の親睦、交流を図ることを目的としています。本学の卒業生は21万人を超えており、毎年同窓生全員の皆さまをご招待することは困難ですので、卒業年度の節目ごとにお招きしています。今年は平成18年度卒業(5年目)・平成13年度卒業(10年目)・平成3年度卒業(20年目)・昭和56年度卒業(30年目)・昭和46年度以前卒業(40年目以上)の方々をメインゲストにご招待いたします。もちろんメインゲストでない卒業生も大歓迎です。ご家族連れや友人同士でご参加ください。

ホームカミングデーのプログラムは、吹奏楽部マーチングバンドによる演奏に始まり、11時30分から記念講堂において、女優・タレントの東ちづる氏による講演を「心豊かに自分らしく生きる ～つながるよりそう～」と題し行います。東ちづる氏は、ドラマ、司会、CMなど多方面においてご活躍中ですが、多忙な女優・タレント業の傍ら、プライベートで熱心にボランティア活動をされています。昨年の東

日本大震災後も被災した障害者施設や養護施設の支援のため、チャリティー絵画展の開催等の活動を続けられています。

また、13時30分からは中央講堂において、本学学長・石井清純先生(仏教学部教授)による「北アメリカのZEN - 『禅と林檎 - スティーブ・ジョブズという生き方 -』刊行に因んで -』と題した特別講演を行います。スティーブ・ジョブズ氏はiPhone等のヒットで有名なApple Inc.創設者の一人です。生前の曹洞宗僧侶との交流についても知られているところです。是非ご期待ください。

さらに、坐禅体験、施設見学(禅文化歴史博物館・医療健康科学部施設・深沢キャンパス等)、懇親パーティーと盛りだくさんの企画を用意しております。

当日は、在校生によるオータムフェスティバル(以前の大学祭・駒澤祭)も同時に開催されていますので、学生諸君の若いエネルギーにも触れられます。在校生の企画もお楽しみください。

ホームカミングデー開催日にOB会や同窓会を予定しているゼミ・サークル・任意団体などがあれば、本学ホームページのホームカミングデー欄に掲載し、参加者を募る連携も可能です。遠慮なく下記宛にご連絡をお願いいたします。

(実行委員長 松本 享)



駒澤大学ホームカミングデーホームページ
www.komazawa-u.ac.jp/cms/hcd_9th
実行委員会事務局メールアドレス
koho@komazawa-u.ac.jp

大学からのお知らせ
は、駒澤大学ケータイ
サイトへ



清水選手 銅メダル

本学OB

堂々の 日本アマチュア ボクシング界 44年ぶりの快挙!

2009年経営学部卒業（現自衛隊体育学校所属）の清水聡選手が、ロンドンオリンピックのボクシングバンタム級に出場し、みごと銅メダルを獲得した。

7月29日の1回戦は、2ラウンドまでポイントで劣勢であったが、3ラウンド目の猛攻で見事逆転勝ちを収め、2回戦へ進出。8月2日に行われた2回戦では、一度は、17-22でポイント負けとなったものの、清水選手側が判決を不服として起こした提訴が認められ、準々決勝に進出することが決定した。

続く8月6日の準々決勝は、メダル獲得のかかる試合。日本アマチュアボクシング界においても44年ぶりのメダル獲得に向けての期待がかかっていた。この試合は、17-15の2ポイント差で



勝利。メダル獲得を確定させた。

準決勝では、イギリスのCampbell選手（金メダリスト）との戦い。完全アウェーの中、惜しくも敗退。銅メダル獲得となった。

試合後、清水選手は、「たくさんの人たちに支えられてきてこのメダルを取ることができました。ずっと4年間、リ

ベンジしたい気持ちでいっぱい銅メダルを獲得することができました。目指していたところに手が届いて、夢のような気持ちです」と語った。

学園通信303号のインタビューの際にも「必ずメダルを持って帰ってきますよ」と力強く話してくれた清水選手。多くの感動をありがとう。

